

養生テープに植物原料

「じやま経済」

「じやま経済」 2013年11月21日 第1000号

欧米意識 40年ぶり改良

三菱ケミカルの子会社で黒部市に主力工場を持つ産業資材メーカー、ダイヤテックス（東京都千代田区、榎屋康裕社長）は、植物由来のバイオマスプラスチックを配合した養生テープを開発した。リニューアブルは40年ぶりで、主力の黒部工場（黒部市番掛）で生産する。石油資源の依存度を下げ二酸化炭素（CO₂）排出削減につなげることで、環境意識の高い欧米市場での競争力を高める。（米沢慎一郎）

ダイヤテックスは1981年、石油由来であるポリエチレン製の養生テープを世界で初めて開発した。手で簡単に切れ、きれいに剥がせる特長が高い評価を得ており、この分野で国内トップシェアを誇る。新たに開発したのは、テープの原料となるポリエチレンに、バイオマスプラスチックを10%混ぜた製品。まずは主力製品である塗装・建築用からリニューアブルし、11月から販売を開始した。今後、他の用途向けの養生テープも同様にリニューアブルしていく予定。

同社が生産する養生テープを全てバイオマスプラスチック配合タイプに切り替えるなど、年間に約1200トンのCO₂排出削減効果が見込めるといふ。

同社は海外輸出にも積極的に取り組んでおり、今回のリニューアブルは環境意識の高い欧州などでの安定的な販売を見据えた。

榎屋社長は「将来は廃棄された自社製品を回収し、リサイクルして新たな物を作るなど、循環型社会の実現に貢献していきたい」と話している。

ダイヤテックス黒部工場



①バイオマスプラスチックを配合したダイヤテックスの養生テープ
②リニューアブルした養生テープを生産しているダイヤテックス黒部工場